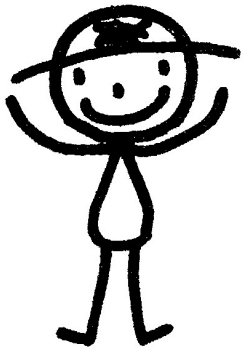
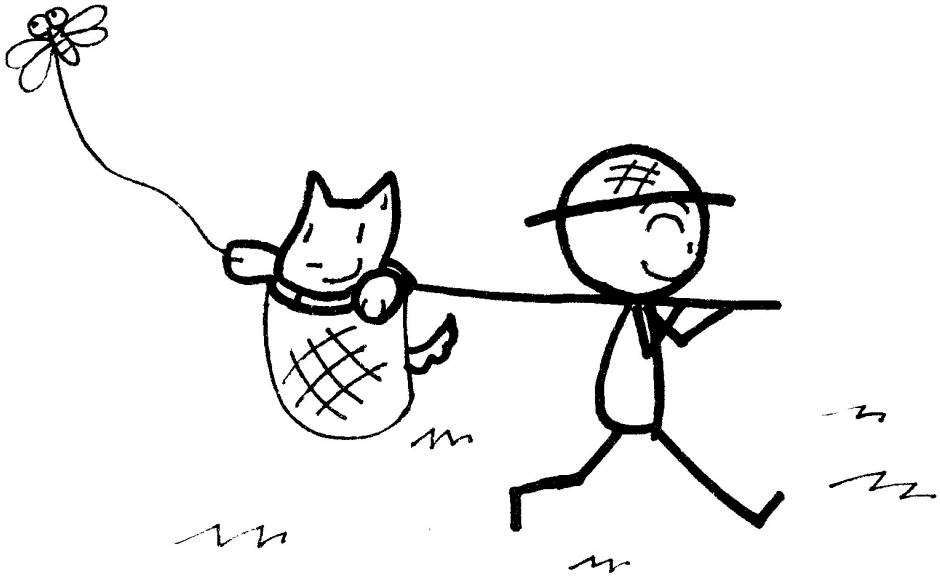
上田地域もの・こと交換制度

蚕都くらぶ
ま～ゆ



蚕都くらぶま～ゆ会報 **No.6** 2002年7月10日発行



ま～ゆ連絡先　代表　安井啓子

〒386-0001 上田市上田 2574-16

Tel&fax　27-3186

メール　ma-yu@ml.melma.com

ま～ゆホームページ　http://www.ued.janis.or.jp

“ま～ゆ”を 夢育てのフィールドに！

安 井 啓 子

「『地域通貨』って何だかおもしろそう。これは、奥が深そう！やっぱ、やってみなくちゃわからない。」と、昨年の11月に「蚕都くらぶ・ま～ゆ（繭）」をスタートさせて8ヶ月がたちました。私たちは当初「30人～40人ぐらい集まってくれたらうれしいネ。」と言っていたのに、何と、予想をはるかに超えて今では120人程の仲間の輪になりました。この間、各種新聞記事で取り上げて頂いたり、テレビ県民室（SBCTV;6月2日）や、ニュースアップ信州（NHK 総合 TV;6月26日）で紹介していただいたりと、色々な所で“ま～ゆ”が注目されています。そこで、“ま～ゆ”の魅力について**ちょっと**考えてみました。（余り深く考えないでちょっと考えるってところが私らしいかな？）

まず何といっても第１は、人と人の関係がすご～く温かくて心地いいってこと。全く知らなかった人でもすぐ旧知の間柄のようになれてしまうってこと。

第２は、色々と考え過ぎないで気軽に“オネガイ”がしあえること。（モノ・コトの交換ができること。）

第３は、“自由”ってこと。堅苦しいルールがなくとてもフレキシブルであること。モノ・コトの交換は、やってもやらなくても本人次第。誰にも咎められない。したがって後ろめたさも起こらない。要するに、何でもありってところかな？！

第４は、“自分発見”ができること。「私ってこんな“力”があったんだー」と新たな“魅力”を発掘してもらえること。人に頼まれることで、これまで余り気にとめなかった自分の価値に気づくこと。人に当てにされる、人のために何かしら役立つことの心地よさ。これって、味わってみないとわからないものですよネーー。

第５に、仲間の輪の中で次々と“夢”が実現しそうなこと。1人じゃできないけど、考えてるだけじゃ始まらないけど、“夢”を語ると、それに応えてくれる仲間がいるって何てうれしく心強いことでしょう。例えば、手作り味噌作り、コメづくりプロジェクト（須川・夢プロジェクトに発展しそう）里山整備等、次々に“夢”が生まれてきます。それが“夢”で終わらず“現実のモノ”にしていける。しかも**みんなの力で**。その手ごたえの確かさ。まだまだ他にも不思議な魅力を秘めていそうです。

これまでの“お金”に縛られ、“損か得か”の判断で物事の価値を測ってきた暮らし方。価値の尺度が“マネー”でしか測れない。そんな世の中から人間そのものを活かす“ヒューマンスケール”に価値の尺度を転換すること。そんな暮らし方を大事にしたい。人と人、人と自然の優しい関係を紡ぎだし、様々な色で染め上げ、“夢”を織り込む作業に**知**と**技**と**時**を使い、真に“豊かさ”が実感できるそんな地域と暮らしを作り出していきたい。“ま～ゆ”は使ってこそ“価値”が生まれます。みんなで“ま～ゆ”をおおいに使い回し、“ま～ゆ”使いの名人になりましょうよ。そして、“夢”を1つ1つ実現させていきましょうネ。みなさん！

上田市「まーゆ」からも参加
会員の活動内容話す
地域通貨フォーラムin信州

地域通貨の現状を知り市民がどのように参加して行くのが良いかを聞く「地域通貨フォーラムin信州02春」がこのほど、長野勤労者福祉センターで開催された。参加者は約50人。徳永哲也長野大学教授の基調講演では「日本には古くから結（ゆい）・手間がえなどの地域通貨に通ずる交換制度があった。世界各地で行われている地域通貨は経済効果としての役割に重きを置くが日本の場合、助け合いの傾向が強く注目を浴びている。全国に約140カ所ある地域通貨のうち長野県が占める割合が非常に高い」などの話があった。

パネルディスカッションのパネリストには、美麻村「縁」の吉田比登志代表、駒ヶ根市「ずらあ」の春日俊也さん、そして上田市の「まーゆ」代表・安井啓子さんが登場。コメンテイターとして長野県副知事の阿部守一さんが参加し、阿部さんからは「強制権を持つ行政や、市場原理とも違う市民社会の互酬性（制）に一個人として興味と期待を持っている。顔の見える関係、周囲に理解を得る方法を考える必要がある」と話した。

トークセッションでは上田市の「まーゆ」が、会員の実践内容を語り、地域経済発展のために発生した駒ヶ根市「ずらあ」も経済発展と地域作りとのギャップに苦戦中で別の形を模索中と報告した。会全体としては地域通貨の究極に幸せ・出会い・お助けがあることを再確認した。

「まーゆ」会員が実践体験を語る

のび太さんの「まーゆな日々」 №7 のび太 こと 早川 潤

○月○日

今日は自転車のパンク修理に№133Aya さん宅へ。電話で伺った場所確かこの辺だよなあ、とうろうろしていると、こんにちー！とAya さんが出迎えてくれた。

小学生の息子さんの自転車をさっそく修理にかかる。慣れた手つきでヒョヒョイのヒョイ・・てなわけにいかなかったが、まぁなんとか修理終わった。

もしすぐ空気が抜けるようだったら「アフターサービスしまっせ！」と己の腕に自信がないことを正直に告白しておくことも忘れない。

「お茶でもいかがですか」と Aya さんから勧められ、遠慮なくご馳走になることにした。

聞くところによるとそこ Aya さんのご実家だそうで旧家の土間を改装した素敵な玄関でおもてなしを受ける。Aya さんのお母さんも加わりしばし世間話に花を咲かせる。

ふと天井付近を見上げると見慣れた山々の写真が飾ってあるではないか。上田西部地区の岩鼻から烏帽子岳付近までを小牧山中腹から昭和30年代に撮ったものだそうで、畑と田んぼの中に集落が点在している。これがなんとも言えず、とってもいい風景なのだ。

そう、前号の「まーゆな日々」で書いた「三丁目の夕日」時代だ。もしかしたら、この写真が撮影された時にわたしは虚空象山で遊んでいたかもしれないなあ・・と、しばし幼き日べの郷愁にかられる。

ご馳走になった御礼を述べ、まーゆの取引を終え、恒例になった握手をして帰路に着いたのだが、道中写真で見た山並みの風景になんだか違和感がある。あくまでも主観なのだが、コンビニやスーパー、そして電気屋さんなどが、これでもか！というくらいに店内を明るくして営業している様がどうもケバケバしく、全体の景観を阻害しているように思えてならない。

Aya さん宅にあった少しセピアカラーに変色した白黒写真の輝きは一体何なんだろうと考えてしまった。

田んぼプロジェクトだより

会員番号 2番　　ごんべい こと 中島邦夫

昨年 11 月ま～ゆがスタートした直後、みんなに「自分たちでお米を作ってみたいね」と思いつきで問い掛けたところ「いいね！やろうやろう！」と、かなりの好感触。「じゃま～ゆ全体としてはチョッと重いのでサークルということでやろう」と素人の恐ろしさでこの無謀とも言えるプロジェクトは始まったのです。実際、経験のある人はほとんど無く、言いだしっぺの私とて子供の頃の手伝い程度の経験しかありませんでした。しかし、この中に何かとても大事なことが含まれているような予感がしていました。

田んぼ探しを始めましたが目当ての立たないまま年を越してしまいました。そんな折、トーキングプラザ２１でお話をいただいた信州上田ファームの林寛夫室長からいくつかの候補地の紹介をいただきました。その中で須川の棚田にピンと来るものを感じ現地を案内していただきました。須川の谷を上り須川湖のほとりに出る手前の一番上の荒れた棚田数枚が候補地でした。標高 700m、28 戸の集落。５町歩程度の棚田が里山の原風景を醸し出し、何十年いや 何百年前にタイムスリップしたかのような懐かしい感慨が沸いてきました。今時こんな素晴らしい里山としての景観が残っていたなんて全くの驚きでした。地元の手塚さん青木さんが「何で今更こんなところで田んぼを…」と呆れ顔で言われましたが思わず「こんな所だからやりたいのです！」と答えてしまいました。

望月町で有機農業をやっている大木さんにお会いして教えを請うたところ、どうせやるなら完全有機栽培の無農薬・無化学肥料でおやりなさい。と言われ、大木流栽培法を伝授していただきこれでやる事にしました。

＜大木流栽培方法の特長＞

①不耕起（耕さない）

②代かきは足で踏みつけるだけ（何人かで腕組みをして横に並んで踏みつける。私たちはラインダンス代かきと命名）

③肥料は米ぬか（坪当たり 1.5kg）と米ぬか・砂糖・現地の腐葉土から作ったボカシ（坪当たり 200g 位）のみ

＜米つくり作業日誌＞

5月7日　ビーバー（ファームで借りた）で柳、茅がや、ヨモギなどの雑草を刈り倒す。十年以上も放置されていたのでかなり荒れていた。田んぼの面積よりも畦の面積のほうが広くその上急勾配で苦労させられそうだ。

5月8日　早朝、草と土手焼き（消防署に届けでて）。米ぬか（泉田の肥料センターから購入）300kg、ボカシ 30kg 施肥。

5月 16 日　大木流の不耕起でやるつもりだったが茅がやの根がはびこっているので田起しをする事にした。畦が急でトラクターが入らず耕運機をバックで入れてやっと起した。生まれて初めての耕運機操作にヘトヘトになる。

5月 24 日　ま～ゆ世話人会で田植えを6月２日に変更。参加者は１５人位か。

5月 29 日　水の管理について耕作組合長の手塚さんの説明を受ける。須川の人たちが いかに水を大切にしてきたかが良く分かった。水門の開放は午前８時から１２時までとのこと。

5月30日　「ながのほまれ」を植付けしたかったが苗が無く秋田こまちにする。JA 丸子育苗センターからファーム経由で２０枚手当て。何年か前の冷害のとき、標高５５０m以上の田んぼは不稔だったので、冷害に強く風土に合った米を作りたいと考えている。

水張り・代かき。青木さんとの立ち話でラインダンス代かきの話をしたら「2～3年は無理だろう」とのことで急遽耕運機での代かきに変更。オケラ、ミズスマシ、トンボ、トカゲ…10 年以上耕作をしていなかったので虫や小動物の楽園だ。お騒がせします。

5月31日　水管理。前日満々とした水も夜中にほとんど抜けてしまった。モグラなどの穴埋めと土手の修理。

6月2日　田植え。

絶好の天気に恵まれ、長野大学の女子学生４名も参加してくれて総勢 20 名の賑やかな田植えとなった。(詳しくはHP 参照)
９時開始。12 時終了。

田んぼで食べたおにぎりの美味しかった事。ささやかな一歩でしたが夢は限りなく広がったのであります。

午後は「食べ放題！」の言葉につられて、ファームのイチゴ園の摘み取りを手伝う。新しい地域通貨による交流の可能性を感ずる。

6月3日～ 朝の水管理。7月の上旬までは浅水管理に心掛ける（分けつ促進）。苗が短いため冠水してしまい根ぐされが心配だ。来年は長く育てておこう。

6月10日　田植えをしてから一週間が過ぎた。最初の2～3日は下の2枚の田の水漏れが激しかったが、水で締まって段々落ち着いてきた。いちばん上の田は水口がかなり高く上手く水が掛からない。秋に土手の補修と一緒に手を入れよう。

6月22日 第一次畦草刈。

ビーバーで3時間かかった。畦で転ぶこと数回。聞きしに勝る難作業。隣りの田の苗との生育差が気に掛かる。田植え時差2週間だけの差ではなさそうだ。

6月29日 朝、水を見に行くと取水口からは とうとうと流れ込んでいるのに田んぼには掛かっていない。水路を調べてみると途中の草薮の下に大きな穴があいてそこに水が吸い込まれてしまっていた。泥や草を詰めて応急処置をする。田んぼの中の草はまだ余り生えていない。7月の中旬頃に転ばし機で一回目の除草をしよう。

投稿欄・ま～ゆに一言

いつも活気ばんばんの「ま～ゆ」の皆様こんにちは。　№30 の布施教子です。

昔だったら隣近所でお願いしたり、されたりして過ごしていたのが、今はなるべくそっとしておくのが良い関係のようになっています。でも、インターネット、電話、Fax 等で遠くの友達と交流ができるようになりました。それに、毎日なんとなく せわしいし、人と人とのかかわりも多いのでこれでいいと思っていました。

「ま～ゆ」発足の時、№1 安井さんに「入ってみない？」といわれるがままに入会しました。そして、初めての「ま～ゆ市」へ参加したときの驚き。会場が熱く感じました。上田にも(?)こんなに元気な人達が沢山いたんだぁー(唖然)。そしてその人達が 皆賑やかにおしゃべりしている。これが、地域通貨??まだ、頭の中が整理できない。とにかく、仲間に加わらなければ、と「ま～ゆ」でお買い物をしました。自分で持っていったカモミールの苗と頂き物のねぎを売り、タラの芽の枝2本と小豆を買いました(これも驚き)。それに親子陶芸教室の昼食カレー作りの約束もしてしまいました。

そして、「熱勝」さんで初めて使う IH 仕様の新しい台所。準備してあった材料で一生懸命作りました。食事の時、子供達がお母さんの遠慮にもかかわらず「おかわり！」と言ってくれた時は嬉しかった。3時間程の事でしたが楽しかった。今までした事の無い経験でした。

「アレクセイと泉」の実行委員会のお茶菓子作りでは、黄な粉のクッキーを作りました。ま～ゆメールグループで古着を下さいとお願いしましたところ 沢山の衣類が集まり友人の手助けができました。“感謝”今後、ま～ゆ市でも交換会をしたらどうでしょうか。衣類、家具、食器等何でもいいと思います。

今のところ毎回参加できませんが、これからも楽しく交流させてください、

お願い。ま～ゆ市にパソコンを持参で教えて下さる方ありませんか、

須川の棚田で田植えをして

今回の田植えは、私にとって初めての体験で、前日からワクワクしていました。

当日、なかなか思うように苗を植えることができず、自分が植えたところだけ苗が育たなかったらどうしよう･･･と思いながらも､頑張って植えました。隣でおじさんたちは手際よくきれいに植えていて、なんだかとっても[格好よく見えました。

田植えをする中で自然と触れ合えたし、見たことのない虫も発見したし、そして何より地元の方々と一緒にお話をして、笑って、優しさに触れることができ、とってもうれしかったです。

今からもう秋の収穫の日が楽しみでしかたありません。きっとおいしいお米が出来ますよ。白ごはんの上には、やっぱ漬け物かなっ･･･。

長野大学社会福祉学部　１年　大沢　樹理

田植えも土とたわむれるのもすごく久し振りで、前日からワクワクしていました。いざ田んぼに入り歩くと、足つぼに足をとられ、歩くだけでも大変でした。苗を植えるコツをつかみはじめたと思ったら、終わってしまって少し残念でした。収穫が楽しみです。

地域の方々ともいろいろ話すこともでき、普段体験できないこともでき、とても楽しかったです。もっといろいろ体験したいです。

長野大学社会福祉学部　1年　古川千帆美

地域の人たちや友だちと一緒に田植えをし、色んな話も聞くことができて、とても楽しかったです。

前に田植えをした時と方法が違っていたので､新たな発見をしました。田んぼで転んだ人がいて、おもしろかったです。転ばないように気をつけました。

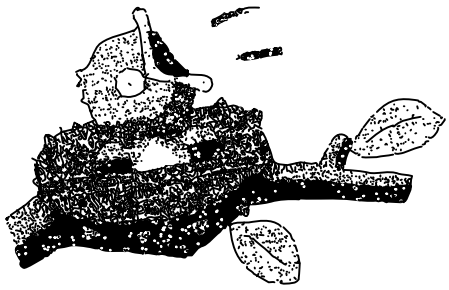
長野大学社会福祉学部　１年　松沢　彬子

託児をして感じたこと　　長野大学学生　**村山亜沙美**

今回は、地域通貨を通しての託児体験でしたが、私たち大学生にはとても良い機会となりました。普段、大学という狭い枠の中で生活している私には、地域社会と交流するという面でまず新鮮な気持ちを味わえました。そして、何よりも子どもたちと関わることは、福祉援助を学ぶ私たちにとって、具体的な関わり方を身につける良い機会となりました。幼児・学童が多かったのですが、個人が楽しめるような関わりが出来たと思います。

私は短大で保育の勉強をしていて、保育士資格を取得しましたが、こうした機会があって初めて、対人援助が必ずしもマニュアル通りにはいかないことがわかり、「自分を見直す姿勢」の必要性に気づかされました。私たちは普段の生活の中では、自分を判断する基準、ものさしがほとんどありません。だから、こうした機会をどんどん増やしていって、地域の人たちにも、また自分自身にも糧となるような役割を果たしていきたいと思います。

今回はありがとうございました。



託児を行なって　　長野大学学生　**神戸祐美**

６月 15 日、創造館で託児をさせていただきました。「蚕都くらぶ・ま～ゆ」の会員になったばかりの私たちにとって、初めての“ま～ゆ”交換でした。以前から子どもが好きだったので、当日をとても楽しみにしていました。講演会の間、子どもだちと鬼ごっこをしたり、アスレチックで遊びました。３時間ほどでしたが、天気も良く私自身も子どもたちと思い切りはしゃぎ、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

今回、初めての“ま～ゆ”交換でしたが、自分たちの空いている時間で少しでも地域の方々のお役に立つことができ良かったと思います。実際はまだまだ地域通貨を利用する人は少ないようですが、これからどんどん利用者が増え、この“ま～ゆ”を通じて上田市に住む人々のつながりが深まっていけば、と感じました。私も会員の一人として、さまざまな生活場面においてま～ゆ”を利用し、それによってたくさんの地域の方と交流をしていきたいと思います。

今回、「託児」ということで地域の方と関わる良い機会を与えていただき、ありがとうございました。

展覧会をみてください

№102の吉本です。

今年の 8 月 4 日(日)～8 月 24 日(土) まで３週間、塩田平にある廃校、**旧西塩田小学校**を舞台に、美術、生け花、映画、ダンス・パフォーマンス、ライブパフォーマンス、信濃デッサン館館主窪島誠一郎氏の講演会、ワークショップ、等々あらゆる芸術表現が集まる展覧会を開催いたします。

本展覧会では、**100 まーゆ**と展覧会入場券とを交換いたしますので、皆様ま～ゆを使って１度と言わず３度くらいご来場下さい。展覧会で貯まったま～ゆで皆様には展覧会の手助けしてもらおうと思っております。よろしくお願いいたします。

ま～ゆな人＆店

No.17 ササキこと佐々木義之さん

「柔らかな視線を向けてくる人」佐々木義之さんに初めてお会いした時の印象はこれでした。

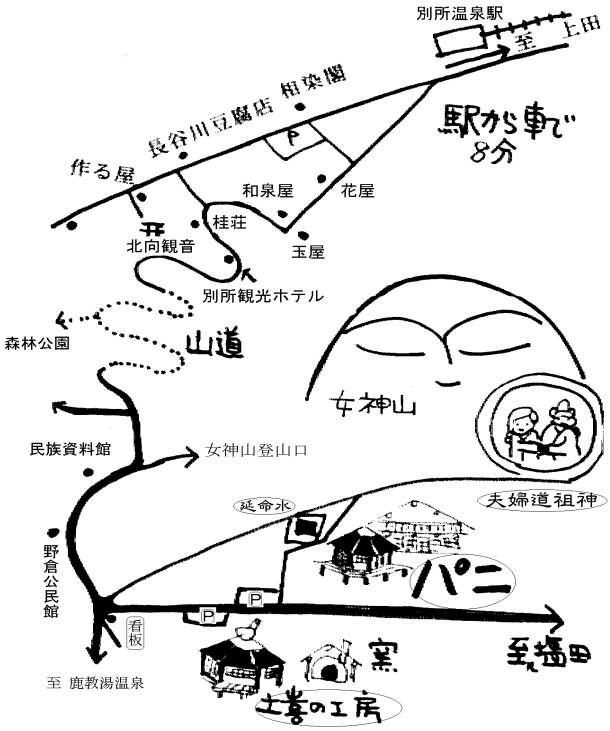
別所温泉から山道を何回もカーブして、たどり着いた野倉に佐々木さんの工房”土喜”と茶房”パニ”がありました。かの有名な夫婦道祖神の近く、店もその主も、周囲の山々に溶け込んだ雰囲気そのものに、穏やかで、物静かないい感じ。「これをどう表現したらいいだろう」。もどかしさを残しつつ筆を運びましょう。

22年前まで大都会の川崎市で、反原発や公害運動で活躍されていた佐々木さんの姿は、想像しがたいものがあります。ここに引っ越してこられ、子供達と土いじりする生活を通して、自然の中に身を置いた穏やかな運動に、変えられたのでしょうか。

茶房”パニ”は5年前から開いたとお聞きしました。自宅を兼ねた建物はご自身で建てたものだそうです。枕木を校倉風に組み合わせ、土壁はコテの後が荒々しく残った自然風で、「とにかく行って見て下さい」と言うよいりほかがない”いい感じ”なのです。十分な時間が無かったために工房は拝見できませんでしたが、”パニ”お勧めのゴマプリンは「胡麻を炒って、丁寧にすりあげて作った香ばしさ」が口の中で佐々木さんそのものにフワーッと広がってくる感じでした。手作りのパンとケーキ、パフパフバナナにシュークリーム。すべてここでなければ味わえないものばかり。これらが工房”土喜”で焼いた器にのってくるのは言うまでもありません(もちろんコーヒーカップも)。

パニとはヒンズー語で水のこと。そのイメージどおり、日曜日など小さな店からあぶれたお客さんは外のテーブル(これも手造り)でネパールに行ったような気分を味わえるとか。自然風の極めつけは営業期間に集約されます。水曜・木曜の定休日は普通としても、12月１日から３月31日まで冬季休眠とはビックリしました。佐々木さんの生き方に感銘するばかりです。ホームページも開いておられますが、この方の人柄にじっくり触れるには平日の方がよさそうです。

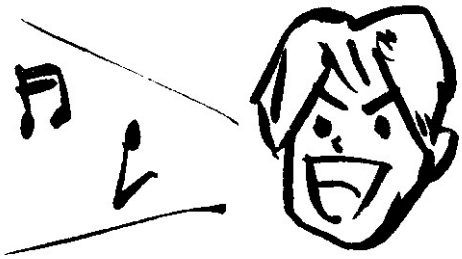
もう一つ「私のお勧めスポット」があります。でもここには書きません。気になる方は私に直接聞いてください。　□□



ま～ゆには実に様々な人々が参加しています。

もしかすると、ま～ゆに参加しなければ知り合うこともなかった人々。一人一人が多彩で貴重な経験や知識・技術をお持ちです。お金には換えられない魅力タップリの「人間の財産」をお持ちの方を「ま～ゆな人」と命名し、ま～ゆの発展のためにドンドン紹介します。

№41 かっちゃく・木下勝敏



「かっちゃく」こと木下勝敏さんといえば金髪・大きな声・ま～ゆ市の司会者…アッあの人だ！とお解かりいただけたでしょうか。かっちゃくさんはともかく てきぱきと活動的。ま～ゆ暦６ヶ月。この間の「ま～ゆ交換」ば20回。現在の収支はプラス６４０ま～ゆです。現在は熱勝上田支店の支店長。

陶芸材料を扱うプロです。ま～ゆ交換でいちばん印象に残っているのはカレーライスを作ってもらったこと。熱勝ではこの間、親子陶芸教室を開催し大人気でした。そしてそのときに振舞われた人気のカレーライスをま～ゆで作ってもらったのです。「金儲はだけの事業は成立しない。」と言うのがかっちゃくさんのポリシー。

地域や人とのつながりを大切にし貢献するためにもま～ゆは有効だと評価します。

忙しいかっちゃくさんが一番大切にしているのは音楽、とくにブルックナーと合唱が命です。顔に似合わず硬派のかっちゃくさんは自分のことを「地味で照れ屋」といいます。でも某民放 TV の取材の際に美人アナを喜々としてエスコートをしてたのは誰だったんだろう？ともかく野球、ラクビー、マラソンとスポーツも得意なかっちゃくさん。これからも多彩振りを発揮してください。

ズクを出すことの快適さ ま～ゆ交換で思うこと

「なんだかおもしろそう……」と気軽に入会した私が、今では名刺に“ま～ゆは私の命です”なーんて歯の浮くような文句を刷り込むくらいにオネツを上げています。一方「おまえ、新興宗教にでも入ったんじゃないか？」と揶揄される程 ま～ゆ病に冒されている人もあるとも聞いています。ま～ゆの感染力 その[スゴサ]は驚くばかりです。

去年まで全く知りえなかった同病の(１０人をはるかに超える)仲間が私の家に来ていただいています。屋根の落ち葉の片付けや、自転車のパンク修理をしてもらい、花や野菜を分けていただき、ストーブの燃料を届けてくださった方もありました。私は名刺を作ってさし上げ、庭で採れたイチゴのジャムを小分けしたり、と数多くの交換をしてきました。そして、お茶を飲んで話しをしているうちに、すぐに打ち解けてしまう“なにか”があるのを知りました。ま～ゆ交換は交歓につながるのです。そこでお聞きする話しから、私の世界は随分広がったように感じています。私の目からたくさんのウロコが落ちました。芸術のこと、経済の話し、そして食物の安全性について。さらに、環境問題ではタイムリーな情報が得られ、驚くこと・考えることばかりで、何もしていない自分を恥じるばかりでした。上田に生まれ、信州の自然をこよなく愛しているつもりの私が、「今何をすべきか」わかりませんが、折も折り、その意思表示をするための格好の判断材料として考えていきたいと思います。

ま～ゆな人たちには共通して“ズク”があります。お金を離れた生活をするために、知恵とズクは欠かせません。それが今まさに破壊されようとしている、地球環境を守る運動の第一歩のように思いますが、いかがでしょうか。「苦しいと思わないで楽しくゆっくりと」、多くの仲間がこういってズクを出すことの快適さに酔っています。この一覧表で「何でも間に合いそう」と感じられるかたは少なくないでしょう。どんな些細なことからでも始めて“ま～ゆ使いの達人”を目指そうじゃありませんか。

感じるままに…余白を埋めてみました。　　都々平